

魚介類養殖試験

杉山昭博

目的

養殖あるいは放流対象種として、有望と思われる魚介類の飼育試験を行い、増養殖に適した魚種を選択する。

方法等

1. チャイロマルハタ飼育試験

輸入業者を通してフィリピン産種苗（尾叉長：20～40mm）を入手し、生残率や成長等を試験した。

2. ハマフェフキ中間飼育試験

平成5年6月22日に本部町の県栽培センターで生産された種苗（平均尾叉長：25.2mm）、約23,000尾を水産試験場の陸上水槽（160t×2面）で9月上旬まで中間飼育した。

結果

1. チャイロマルハタ飼育試験

まず初めに1tパンライト水槽で飼育し、その後屋内の1tコンクリート水槽に移した。各水槽ごとの飼育結果は図1～8のとおりであるが、飼育当初は配合餌料への餌付が悪く、また白点病でだらだら斃死が続

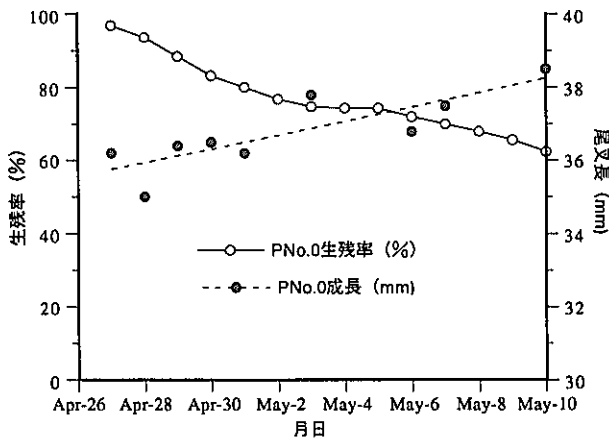


図1 チャイロマルハタ幼魚のパンライト水槽 (No. 0) での生残率と成長

いた。その後比較的安定したがコンクリート水槽に移した直後にも斃死が発生した。また、9月3日台風の影響で停電して海水と空気の供給が一晩停止し、酸素欠乏で大量斃死した。

夏季の高水温には強く食欲もあったが、冬季水温が低下すると2日に1度摂餌する程度に食欲が減退した。

平成6年4月13日の時点で尾叉長：200～288mm、体重：140～420gであった。

尾叉長と体重の関係は図9に示すとおりである。

2. ハマフェフキ中間飼育試験

飼育期間中の成長と水温は図10の通りであった。

高水温時の飼育と水産試験場の施設能力から十分な海水を使用できないことで、給餌量を極力少なくして成長よりも生残率を重視したことで、病気の発生は予防できた。

取り上げ結果は9,931尾と期待を下回った。この原因は毎日の底掃除ではほとんど斃死魚が見られなかったことから、餌を抑えたために共喰いによる減耗と思われる。

ハマフェフキの尾叉長と体重の関係は図11に示すとおりである。

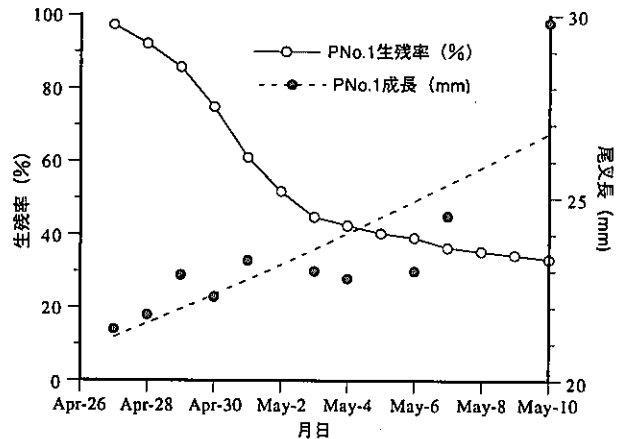


図2 チャイロマルハタ幼魚のパンライト水槽 (No. 1) での生残率と成長

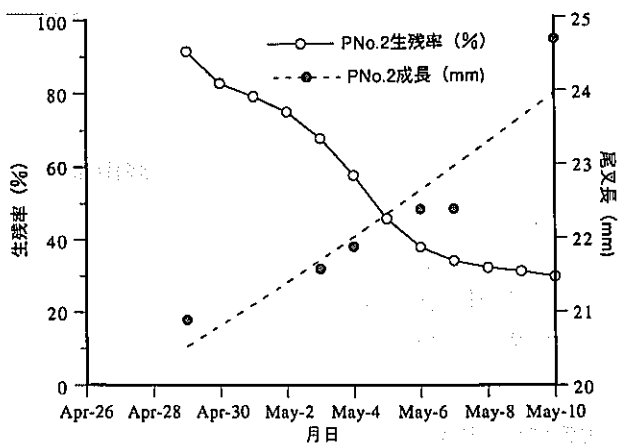


図3 チャイロマルハタ幼魚のパンライト水槽 (No. 2) での生残率と成長

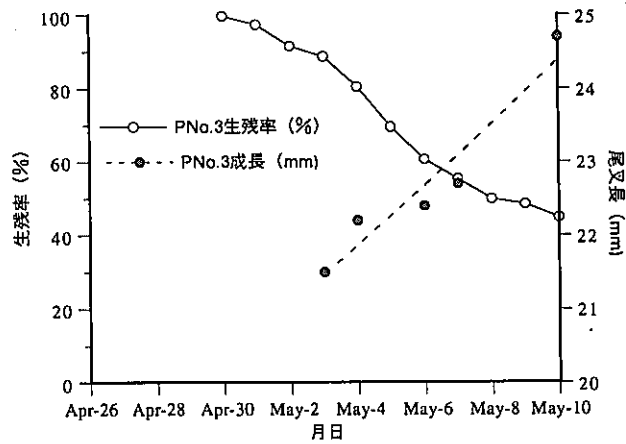


図4 チャイロマルハタ幼魚のパンライト水槽 (No. 3) での生残率と成長

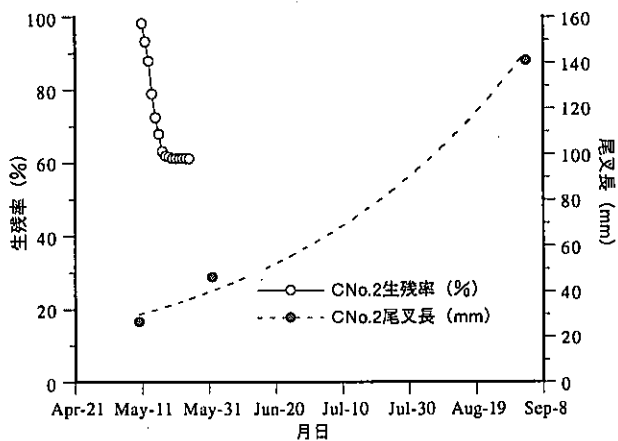


図5 チャイロマルハタ幼魚のコンクリート水槽 (No. 2) での生残率と成長

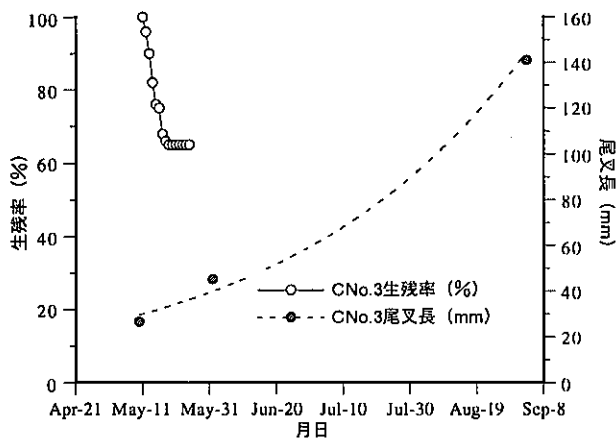


図6 チャイロマルハタ幼魚のコンクリート水槽 (No. 3) での生残率と成長

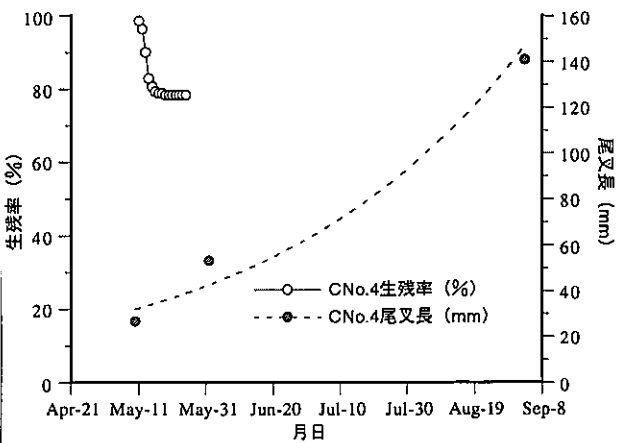


図7 チャイロマルハタ幼魚のコンクリート水槽 (No. 4) での生残率と成長

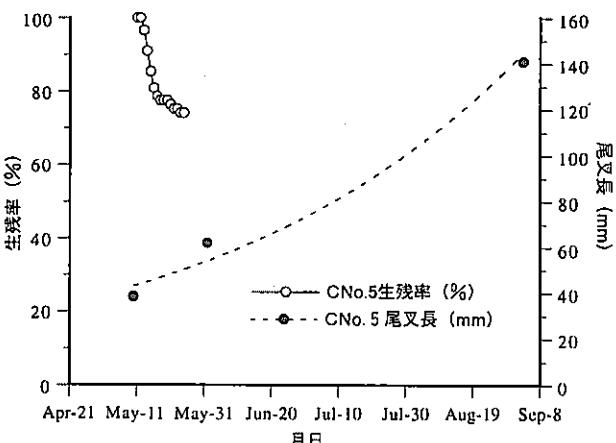


図8 チャイロマルハタ幼魚のコンクリート水槽 (No. 5) での生残率と成長

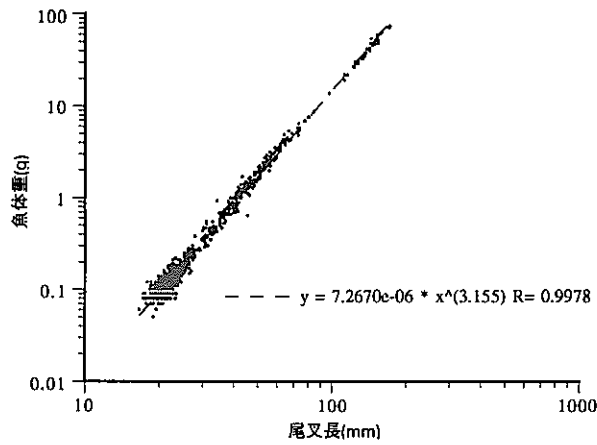


図9 チャイロマルハタの尾叉長と体重の関係

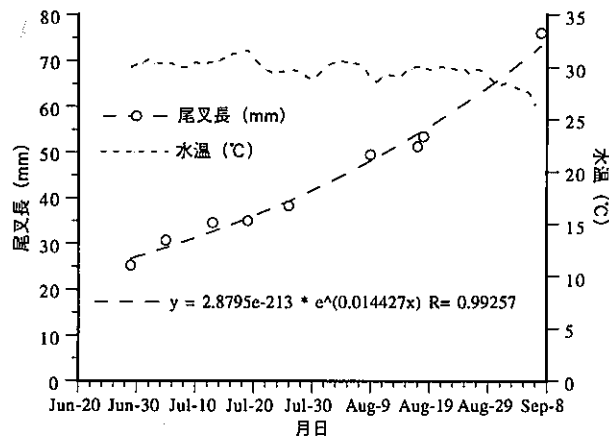


図10 ハマフエフキの中間飼育

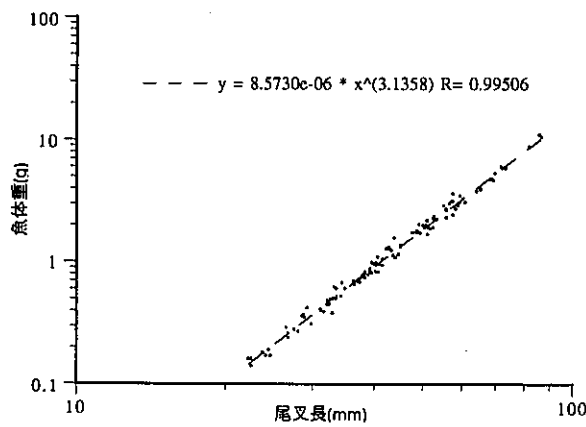


図11 ハマフエフキの尾叉長と体重の関係